

ヨセフの生涯

夢見る者がやって来た

質問式聖書の学びシリーズ

(教師用ガイド)

目次

この本の使い方

- 1章 夢をあきらめるな (創世記 37 章)
- 2章 どこに行っても忠実に (創 39 章)
- 3章 必要なのは忍耐 (創 40 章)
- 4章 指導者となるには (創 41 章)
- 5章 苦しみの中で悔い改める (創 42:1～43:15)
- 6章 神の深い計画 (創 43:16～45:15)
- 7章 人生の最期に (創 45:16～49:33)
- 8章 全ては益とされる (創 50 章)

この本の使い方

この本は、イエス・キリストを信じて受け入れた人が、教えて導いてくれる人と一緒に聖書を学ぶために作られました。もちろん、未信者の人や、信じて何年にもなるけどクリスチャン生活についてもう一度学びたい人のためにも、使うことができます。1対1で学んだり、家庭集会や小グループで学んだりするときにも使うことができます。学ぶ人は、この本の「書き込み用教材」と聖書（この教材では、「新改訳 2017」を引用しています）、そして筆記用具を準備して下さい。学んだことや感じたことを、その場ですぐに書き込んでおくと、後で読み返したときに、よく思い出すことができます。

導く人は、まずこの本の「教師用ガイド」を持って、その日に学ぶ章のタイトルと聖書箇所を言います。そしてその箇所（例えば、創世記 37 章であれば、37 章 1 節から 36 節全部）を、参加者全員で声を出して読みます。1 節ずつ輪読したり、導く人と参加者が 1 節ずつ交読したりしても良いです。これは、聖書の物語全体の流れを把握するために必要なもので、読む量が長くて大変でも、省略しないようにして下さい。その後、導く人は質問を読み、その下に書いてある聖書箇所を、誰か 1 人に読んでもらうように指名します。その人が読んだ後、導く人は再び質問をその読んで、誰かにその答えを言ってもらいます。いつも同じ人ばかりが答えるのではなく、「他の人はどうですか？」と言って、みんなに発言を促して下さい。導く人はあまり話しすぎないで、参加者みんなが積極的に答えて、自由に話し合いができるような雰囲気を作って下さい。話しがまとまってきた後で、導く人は、教師用ガイドの「解説」の箇所を読みます。もちろん、これは参考なので、導く人が短く自由にまとめても良いです。その後、次の質問に移ります。各章の最後の質問は「まとめと適用」の質問です。参加者全員が一人ずつ発言して、自分の生活に具体的に適用して、実際に決心できるように導いて下さい。そして、祈りを持って学びを終わります。

この本は、学ぶ人が自分で聖書の中から答えを見つけることができるように作られています。自分から聖書を開いて「みことばは何と言っているか」を探す習慣がつくと、それが神の御声を聞く訓練になります。みことばを読んでその意味をよく考えて、それを自分の実際の生活に適用し、みことばを実践していくとき、その人は霊的に成長していきます。自分自身で見つけた答えというのは、後になっても忘れません。また、他の参加者の答えを聞くときに、以前から知っていた聖書箇所も新しく感じるものです。

導く人は、この本を使って、他のクリスチャンの霊的成長を助けることができます。質問はそれほど難しくなく、その聖書箇所をよく読んで考えれば、誰でも簡単に答えられます。なので、聖書知識をたくさん持っていない人でもすぐに導くことができます。そして、導く人は、自分自身が一番準備し、学び、そして成長できます。みことばを教えることによって、他のクリスチャンの成長のために仕える喜びを体験するようになります。この本を使う人がみな、神のみことばによって共に成長していく祝福を味わいますように、主の御名によって祈ります。

2017 年 8 月 30 日 伊藤 仁

1章 夢をあきらめるな（創世記 37 章）

まず、創世記の 37 章全部（1 節から 36 節まで）を、声を出して読んでみましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、 ヨセフは兄たちのどんなことを、父に告げていましたか？

（創世記 37:2）これはヤコブの歴史である。ヨセフは十七歳のとき、兄たちとともに羊の群れを飼っていた。彼はまだ手伝いで、父の妻ビルハの子らやジルパの子らとともにいた。ヨセフは彼らの悪いうわさを彼らの父に告げた。

（解説）ヨセフは兄たちの悪いうわさを、父に告げていました。ヨセフは 17 歳で「まだ手伝い」でした。人格的にも、まだまだ未成熟だったのです。自分の悪いところを他の人に告げ口されたら、誰だって腹が立つものです。ヨセフの母はラケルなので、兄たちとは腹違いの兄弟でした。なので、兄たちの悪いうわさを父に告げたら、兄たちとの仲が悪くなるのは、なおさらのことでした。しかし、ヨセフはまだ若くて、そのような健全な人間関係の築き方を知りませんでした。相手がどう思うかを考えず、自分が思った通りをそのまま平気で言ってしまう。自分の周りの人、特に家族と、どのようにしたら良い関係を築けるか、を考えるほど成熟してはいませんでした。霊的・人格的成熟とは、人間関係の成熟です。特に、家族関係がどうかを見れば、その人の本当の霊的成熟さがわかります。私たちは、家族関係（夫婦関係、親子関係、兄弟同士の関係、親戚関係）において、成熟していくことを目指していきましょう。

2、 父ヤコブ（イスラエル）が息子たちの誰よりもヨセフを愛していたことは、ヨセフの兄たちにどのような感情を引き起こしましたか？

（創 37:3-4）イスラエルは、息子たちのだれよりもヨセフを愛していた。ヨセフが年寄り子だったからである。それで彼はヨセフに、あや織りの長服を作ってやっていた。ヨセフの兄たちは、父が兄弟たちのだれよりも彼を愛しているのを見て、彼を憎み、穏やかに話すことができなかった。

（解説）兄たちは、父がヨセフばかり偏愛するのを見て、ヨセフを憎み、彼と穏やかに話すことができませんでした。父はヨセフにだけ、そでつきの長服を作ってやっていました。それで、兄たちはヨセフをねたみ、しっとうしました。もちろん、兄たちの憎しみは良くないことです。しかし、問題の発端は、父の側にあったのです。父は一家のチーム・リーダーとして、公平に正しく家庭を治めなければなりません。家族関係を築き上げていく上で、父親の役割は重要です。例えば、お兄さんが遊んでいるおもちゃを、弟がいつも奪い取ってしまう

ときに、親が「あなたはお兄さんなのだから、がまんして弟にあげなさい」といつも言っていたら、お兄さんは弟と良い関係を築けるでしょうか。親はむしろ弟のほうを叱って「欲しがってはならない」ことや、待つべきことなどを教えて、弟がどんなに泣き叫んだとしても、従うように訓練するべきです。そうするとき、兄弟はルールを守り、お互いに尊重することを学ぶでしょう。メンバーの中の誰か一人だけを偏愛すると、その人は周りからねたまれて、その人が周りとの良い関係を築くことを妨げます。その一人をどんなに愛しても、結局はその人にとって害を与えることになるのです。その子を本当に愛するなら、偏愛、溺愛するのではなく、他の子と同じように、公平に扱うべきです。それがその子のためです。

3、 ヨセフが自分の見た夢を父や兄たちに話したら、彼らはどう思いましたか？

(創 37:8-11) 兄たちは彼に言った。「おまえが私たちを治める王になるというのか。私たちが支配するというのか。」彼らは、夢や彼のことばのことで、ますます彼を憎むようになった。再びヨセフは別の夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また夢を見ました。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいました」と言った。ヨセフが父や兄たちに話すと、父は彼を叱って言った。「いったい何なのだ、おまえの見た夢は。私や、おまえの母さん、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むというのか。」兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心にとどめていた。

(解説) ヨセフの夢の話を知って、兄たちはヨセフをますます憎むようになり、弟から「私が偉くなって、あなたたちは私におじぎするようになる」と言われたら、兄たちはどんなにプライドを傷つけられたことでしょうか。自分にとってはどんなに良い夢（ビジョン）であっても、周りの人にとっては、ちっとも良くないものであることがあります。そのようなときには、むしろ言わないで、黙っているほうが良いのです。自分の将来のビジョンをすぐにむやみに周りの人に話すと、周りから「できるわけない」とか「君は向いていないよ」とか色々と言われて、がっかりして、自分のビジョンを失ってしまうことがあります。父も彼を叱りました。しかし、父はこの夢のことを心に留めていました。あなたにもしビジョンが与えられたら、それを自分の霊的父親のような人（メンター）に話して下さい。メンターはあなたのビジョンをよく聞いて、心に留めて、励まして、適切なアドバイスをくれて、そして祈ってくれます。人が霊的に成長するには、メンターが必要です。メンターは、自分と同性（男なら男、女なら女）で、自分より霊的成熟度でも、年齢的に人生経験においても少し上の方が良いです。自分の親や教会の牧師がメンターなら一番良いです。あなたの周りにもしメンターがいなかったら、それにふさわしい人が与えられるように祈って下さい。そして「この人かな」と思う人がいたら、遠慮しないで積極的に、謙遜に自分から「私のメンターとなって下さい」とお願いして下さい。そしてその人と定期的に1対1で会って、他の人にはできないような「深い」話をして下さい。その人はきっと喜んで、あなたのメンターになって、あなたの相談相手になってくれるでしょう。そうするとき、あなたは霊的、人格的に大きく成長し、あなたのビジョンも実現に導かれることでしょう。

4、 兄たちは、ヨセフを殺せば、その夢はどうなると思っていましたか？

(創 37:19-20) 彼らは互いに話し合った。「見ろ。あの夢見る者がやって来た。さあ、今こそあいつを殺し、どこかの穴の一つにでも投げ込んでしまおう。そうして、狂暴な獣が食い殺したと言おう。あいつの夢がどうなるかを見ようではないか。」

(解説) 兄たちは「あいつの夢がどうなるかを見ようではないか」と言いました。ヨセフを殺してしまえば、その夢も実現しなくなると思ったのです。そして、悪いたくらみをして、ヨセフを穴に投げ込み、そして奴隷として売り飛ばしたのです。しかし、それでヨセフの夢は消えてなくなってしまったのでしょうか。いいえ、無くなりませんでした。むしろ逆にその事件によって、彼の夢は実現に向けて一歩動き出したのです。あなたが将来にビジョンを持って祈り始めると、サタンはあなたを攻撃して、苦しみ穴に投げ込んで、あなたもあなたの夢をも滅ぼそうとします。そして「あいつの夢がどうなるか見ようではないか」と言って、穴の上から見てあざ笑うのです。しかしそのとき、あなたの夢をそのままあきらめてはいけません。そこで挫折してしまったら、サタンの思うままです。苦難や試練に会ったときこそ「私は絶対に、このままであきらめるわけにはいかない！」と決心して、何としてでも前に進むのです。勝利する者とは、最後まであきらめなかった者のことです。最後には絶対に勝利すると信じ続けた者だけが、その勝利を得るのです。もし途中でやめてしまったら、その時点で負けです。人生のトンネルに入ると、真っ暗で先が見えなくて、いつまでこんな状態が続くのかと思うときがあります。しかし、目にはよく見えないけれど、それでもそのトンネルの中を進み続けるとき、実際には出口とゴールに近づいているのです。あなたが試練にあったのなら、あきらめずに前進し続けて下さい。そのときに、実は逆にその試練を通して、あなたのビジョンは実現に向けて大きく一歩動き出します。信じますか？

5、 夢やビジョンを持ったとき、私たちはどうしたらよいのでしょうか？

(解説) あなたが将来にビジョンを抱いたのなら、

- (1) まずそのビジョンをメンターに話して、祈ってもらって下さい。
- (2) 周りの人、特に家族と、健全で成熟した関係を築いて下さい。
- (3) 試練に会うとき、夢をあきらめずに前進して下さい。

……あなたの夢が、主にあって実現しますように、お祈りします。

2章 どこに行っても忠実に（創 39 章）

1、 ヨセフはなぜ、エジプトで奴隷となっても成功しましたか？

（創 39:2-3）主がヨセフとともにおられたので、彼は成功する者となり、そのエジプト人の主人の家に住んだ。彼の主人は、主が彼とともにおられ、主が彼のすることすべてを彼に成功させてくださるのを見た。

（解説）主が共におられて、主がヨセフのすること全てを成功させて下さったからです。成功とは、場所や地位に関係がありません。アメリカに行っても失敗する人がいます。社長になっても失敗する人がいます。しかし、主が共にいるなら、故郷を離れても奴隷であっても成功できるのです。「主が共にいる人」とは、どのような人でしょうか？それは、いつも主との交わりを保ち、主の御声に聞き従っているので、主がその人をいつも守り、祝福して下さっている人のことです。主イエスを信じる人には、聖霊が与えられて、いつも心の中に聖霊が共に住んで下さいます。この聖霊に満たされているときに、私たちは「主と共にいる人」になることができます。どこに行っても、どんな境遇に遭っても、主が共にいて、私たちの味方となって、助けて下さっていると知れば、何も恐れることはありません。むしろそのような状況の中で、主が引き上げて下さいます。私たちは、場所や地位や状況によってではなく、主が共にいることによって成功する人になりましょう。

2、 主人はなぜ、家の全財産をヨセフに管理させましたか？

（創 39:4-6）それでヨセフは主人の好意を得て、彼のそば近くで仕えることになった。主人は彼にその家を管理させ、自分の全財産を彼に委ねた。主人が彼にその家と全財産を管理させたときから、主はヨセフのゆえに、このエジプト人の家を祝福された。それで、主の祝福が、家や野にある全財産の上にあった。主人はヨセフの手に全財産を任せ、自分が食べる食物のこと以外は、何も気を使わなかった。しかもヨセフは体格も良く、顔だちも美しかった。

（解説）主がヨセフと共におられ、彼を成功させるのを見たからです。そして実際、ヨセフに全財産を管理させた時から、ヨセフのゆえに、主はその家を祝福しました。主人は、全財産をヨセフの手に任せて、自分の食べ物以外には、何も気を使いませんでした。そのぐらい、ヨセフを信頼していたということです。「彼は忠実で勤勉だから、彼に任せていけば大丈夫だ」という信頼を得ていたのです。ヨセフは、たとえ奴隷であっても、神の前、人の前で忠実に、勤勉に働きました。なので、主人は彼を認めて、彼に大きな仕事をも任せることができたのです。

「最も小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実であり、最も小さなことに不忠実な人は、大きなことにも不忠実です。」（ルカ 16:10）

「無精者の手は人を貧乏にし、勤勉な者の手は人を富ませる。」(箴言 10:4)

……忠実な人は信頼されます。そして勤勉な人は成功します。それが聖書の原則です。そのような人は、どこに行っても、どんな仕事をして、主が共にいて、成功させて下さるのです。「どこの町に行くか、どんな種類の仕事をするか」が大事なわけではありません。大事なのは「忠実で勤勉かどうか」です。もしあなたが神と人との前で忠実で勤勉なら、あなたの行く所は全て祝福されます。あなたの行く職場、あなたの行く学校、あなたのいる地域、あなたのいる教会は、あなたを通して祝福されるのです。あなたは祝福の通路となるのです。信じますか？

3、 主人の妻がヨセフを誘惑したとき、ヨセフはどう対応しましたか？

(創 39:9-12) ご主人は、この家の中で私より大きな権威をふるおうとはせず、私がするどんなことも妨げておられません。ただし、あなたのことは別です。あなたがご主人の奥様だからです。どうして、そのような大きな悪事をして、神に対して罪を犯すことができるでしょうか。」彼女は毎日ヨセフに言い寄ったが、彼は聞き入れず、彼女のそばに寝ることも、一緒にいることもしなかった。このようなある日のこと、彼が仕事をしようとして家に入ると、家の中には、家の者が一人もいなかった。彼女はヨセフの上着をつかんで、「一緒に寝ましょう」と言った。しかしヨセフはその上着を彼女の手に残し、彼女から逃れて外へ出た。

(解説) ヨセフは主人の妻の言うことを聞き入れず、彼女と一緒にいることもしませんでした。そして、彼女がヨセフの上着をつかんで言い寄ったときには、その上着を残して、逃げて外へ出ました。なぜヨセフは、そのようにできたのでしょうか？それは、いつも神を恐れて、主人に対してだけではなく、神に対して罪を犯すことがないようにしていたからです。「主を恐れることによって、人は悪を離れる。」(箴言 16:6)

罪を犯さないようにする最善の方法は、それを避けて、その場所をすぐに離れることです。それが知恵です。近くにいたら、肉は弱いので、誘惑に負けて、罪に陥ってしまいます。「自分は大丈夫だ」と思っている人が、実は一番危ないのです。私たちは「自分がこの罪に弱いな」と知っていたら、それに誘惑されそうな場所から離れ、そのような状況を作らないように、事前に予防しましょう。

4、 主人はヨセフの言い分を聞いて事実を確認しましたか？

(創 39:19-20) 彼の主人は、「あなたの奴隷がこのようなことを私にしました」と告げた妻のこぼれを聞いて、怒りに燃えた。ヨセフの主人は彼を捕らえ、王の囚人が監禁されている監獄に彼を入れた。こうして彼は監獄に置かれた。

(解説) 主人は妻の言い分だけを信じて、事実かどうかを公平に調べもせず、怒りに燃え

て、ヨセフを監獄に入れてしまいました。片方だけの言い分を聞いて、怒って感情的になると、正しい判断ができなくなります。自分に近くて親しい人の言うことだけが、全て正しいとは限りません。自分に有利になるように、その人の一方的な視点で訴えてくるのが、良くあるからです。それをそのまま受け入れてしまうと、主の前に間違いを犯すこととなります。だから、何か問題が起きたときは、必ず両方の訴えを直接聞いて、それが事実かどうかを確認した上で、公平に、冷静に判断しなければなりません。主の知恵を求めて、祈って御声を聞きながら、愛をもって判断して下さい。

5、 監獄の中においても、ヨセフは監獄の長にどうされましたか？

(創 39:21-23) しかし、主はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し、監獄の長の心にながうようにされた。監獄の長は、その監獄にいるすべての囚人をヨセフの手に委ねた。ヨセフは、そこで行われるすべてのことを管理するようになった。監獄の長は、ヨセフの手に委ねたことには何も干渉しなかった。それは、主が彼とともにおられ、彼が何をしても、主がそれを成功させてくださったからである。

(解説) 主がヨセフを、監獄の長の心にながうようにされたので、監獄の長は全ての囚人をヨセフの手に委ねて管理させ、ヨセフに委ねたことについては何も干渉しませんでした。なぜでしょうか？それは、やはりここでも主はヨセフと共におられ、彼に恵みを施し、彼が何をしても、主が成功させて下さったからです。監獄に入れられたことは、ヨセフにとって、もちろん大きな苦しみ、悲しみ、屈辱、くやしい思い、怒り、失望、挫折だったことでしょう。神様に対しても「何も悪いことをしていないのに、どうしてこんなことになるのですか？」と何度も訴えたことでしょう。しかし、彼はそれで終わりではありませんでした。その状況に負けて、そのような逆境に屈してしまうものではありませんでした。そんな大変な状況の中にあっても、彼は決して人生をあきらめたり、投げやりになったりせずに、主の前に忠実さを保ったのです。彼は「状況の奴隷」ではなく「状況を治める人」でした。監獄の中にあっても、彼は自分に与えられた仕事を忠実に管理しました。だから、主からも周りの人からも認められたのです。あなたは今、どのような状況に置かれているのでしょうか？たとえそこが監獄のような大変な現場であっても、あなたがヨセフのように主の前に忠実であるなら、監獄を宣教地とし、現場を主の御国へと変えることができます。

6、 私たちがどこに行っても、その行く所が祝福されるために、私たちはどうしたらよいのでしょうか？

(解説) まず、私たちが今置かれている所を考えてみましょう。

- (1) あなたの家庭、親戚、学校、職場、地域、その他あなたが属しているグループはどこですか？
- (2) そのグループの中で、あなたは今どのような役割が与えられていますか？

- (3) その役割を果たすために、今何か難しい点、問題となっている点がありますか？
- (4) その役割を、あなたが主の前で忠実に、勤勉にするためには、どのようにしたらいいでしょうか？
- (5) そのグループのメンバーの名前を書いて、一人一人の祝福と救いのために祈りましょう。

3章 必要なのは忍耐（創40章）

1、 献酌官長と調理官長が朝いらいらしていたとき、ヨセフはどう対応しましたか？

（創40:6-7）朝、ヨセフが彼らのところに来て、見ると、彼らは顔色がすぐれなかった。それで彼は、自分の主人の家と一緒に拘留されている、このファラオの廷臣たちに「なぜ、今日、お二人は顔色がさえないのですか」と尋ねた。

（解説）ヨセフは「なぜ、今日、お二人の顔色がさえないのですか？」と尋ねました。彼らは、夢を見たが、解き明かす人がいなくて、それでイライラしていたのです。誰でも、朝起きて機嫌が悪くて、イライラしたり怒りっぽくなったりすることがあります。そのようなときに、もしきつい言い方で「何でそんなにイライラしてるの！」と責められたら、もっと怒って、火に油を注ぐことになってしまうでしょう。それは全く効果がない、知恵のない方法です。しかし、やさしく「顔色が悪いけど、今日はどうしたの？」と愛をもって尋ねたら、どんなに良いでしょう。その人は自分の感情を受け止めてもらえて、少しは気持ちが収まるでしょう。自制できなくて困っているのですから、周りの助けが必要なのです。その人はその一言によって、どんなに助けられ、ありがたいと思うことでしょう。あなたのちょっとした知恵と愛の一言は、相手が自分の感情を自制するのを助けることができます。あなたの一言、あなたの答え方は、あなたの人格的成熟度を現しています。ちょっとした一言で、相手を怒らせたり、また逆に助けたりすることができるのです。あなたの周りの人がもしイライラしていたら、それを責めるのではなく、それが収まるように助けてあげましょう。

2、 夢を解き明かすのは誰がすることだと、ヨセフは言いましたか？

（創40:8）二人は答えた。「私たちは夢を見たが、それを解き明かす人がいない。」ヨセフは言った。「解き明かしは、神のなさることではありませんか。さあ、私に話してください。」

（解説）「解き明かしは、神のなさることではありませんか」とヨセフは答えました。彼は

「私ができる」とは言いませんでした。ヨセフは謙遜でした。彼は、何か自分に能力があるかのように思っていたのではなく、神が自分を通してなされるものだと理解していました。もし能力があっても、それを自分の所有物のように思い、自分のために使うなら、その人は傲慢であり、いつかはその能力のゆえに自分を滅ぼすことになります。自分自身の能力は、神の目的と人々の祝福のために、神から与えられたものです。それは神の力が流れる通路であり、自分は神の道具にすぎないのです。そしてその結果は、神に栄光を帰します。「賜物」とは、そういうものです。このように謙遜な器は、神に長く用いられます。私たちは自分の持っている賜物を、神の栄光のため、周りの人々の祝福のために用いて、最後は「神がなされたことです」と言って、神に栄光をお返ししましょう。

3、 ヨセフが献酌官長にお願いしたことを、献酌官長は覚えていましたか？

(創 40:14-15) あなたが幸せになったときには、どうか私を思い出してください。私のことをファラオに話して、この家から私が出られるように、私に恵みを施してください。実は私は、ヘブル人の国から、さらわれて来たのです。ここでも私は、投獄されるようなことは何もしていません。」

(創 40:23) ところが、献酌官長はヨセフのことを思い出さないと、忘れてしまった。

(解説) ヨセフは献酌官長に「監獄から出られるように、ファラオに話して下さい」とお願いしたのに、献酌官長は自分が幸せになったら、ヨセフのことを忘れてしまいました。何て不誠実なことでしょう！彼は約束を守らず、覚えもせず、他人を裏切って、他人が困っていても気にもかけないで平気でした。相手が何かをお願いするのは、お願いされた側にとっては小さなことであっても、その本人にとっては、大きなことなのです。そのお願いや約束をうっかり忘れて、「やるやる」と言いながらそれを遅らせたりするのは、不誠実なことです。お願いされたら、それをメモに書いておいて、ちゃんと実行して、それを早く報告することです。もし遅くなりそうか、又は実行が難しくなったなら、それもちゃんと話して、相手の許可を取るべきです。それが誠実であり、人間関係の基本です。そのような小さなことの積み重ねが、お互いの信頼関係を築いていくのです。……人間は、自分がうまくいっているときには、傲慢になって、自分がかつて苦しんでいた頃のことをすっかり忘れてしまいます。そして、同じような苦しみの中にいる人のことをあわれまずに、かえってさばいたりするのです。私たちは、そのようになってはいけません。私たちは、誠実に約束を守り、困っている人たちのことをいつも思い出すようにしましょう。

4、 その後ヨセフは監獄の中で、さらに何年間待たなければなりませんでしたが？

(創 41:1) それから2年後、ファラオは夢を見た。

(解説) ヨセフは、やっと監獄から出られるチャンスが来たと思ったのに、その後、2年間

も待たなければなりません。ヨセフは来る日も来る日も、献酌官長からの知らせを待ち望んだことでしょう。しかし、いくら待っても、何の音沙汰もありません。期待はだんだん失望へと変わっていきます。私たちは聖書を読んでいるので、その2年後にどうなるか知っています。しかし、ヨセフはその後何十年待たなければならないのか、それとも一生このまま死ぬまで監獄の中で暮らさなければならないのか、全くわからなかったのです。あなたが2年間、監獄の中でそのように待つことを、想像してみてください。どんなに長く、つらく感じた2年間だったでしょう！何度神に、涙を流して訴えて祈ったことでしょう！！しかしヨセフは、何の答えもないままで、この2年間を、ただ信仰によって待ち続けたのです。あなたも、そのような八方ふさがりの真っ暗闇の中で待ち続けていることがありますか？そのようなときには、ヨセフのことを思い出して下さい。あなたがそこを脱出する日が、いつか必ず来ます。

5、 ヨセフが奴隷となってから監獄を出るまでの期間は、何年間でしたか？

(創 37:2) ヨセフは17歳のとき、兄たちとともに羊の群れを飼っていた。

(創 41:46) エジプトの王ファラオに仕えるようになったとき、ヨセフは30歳であった。

(解説) ヨセフは17歳のとき、エジプトに奴隷として来て、30歳のときに、エジプトの大臣になりました。それまでの13年間、彼は人生の色々なことを体験しました。彼は兄たちに売られて、奴隷となり、仕えていた主人に捨てられ、無実の罪で監獄に入れられ、友人からは忘れられました。彼はたくさんの悲しみ、苦しみ、失望、怒り、くやしき、あせり、無力感、孤独、心の傷、肉体の苦しみを体験しました。しかし彼は同時に、この13年間で、多くのことを学びました。忠実、勤勉、謙遜、正直、人間関係の築き方、話し方、仕事の管理の仕方、神への信仰、神をより頼み、神を待ち望むこと、神の臨在、神の助け、神の力で成功すること……。彼にとっては、この13年間は、神が直接備えた訓練のときであり、その後の働きの準備ために必要な学びの期間だったのです。この13年間の「荒野学校」を通して、ヨセフは変えられました。未熟で無配慮な青年から、内面的に成熟して、どんな困難にも耐える、強い信仰者、霊的指導者へと成長したのです。あなたは今、この「荒野学校」の期間に置かれているのでしょうか？もしそうだとしたら、この期間に、神があなたに何か学ばせようとしておられることがあるのです。その学校を卒業したときには、あなたは美しいキリストの似姿へと変えられていることでしょう。

6、 私たちの夢は、すぐに実現しますか？ 実現させるために、私たちに必要なことは何でしょうか？

(詩篇 105:18-19) ヨセフの足は苦しみのかせをはめられ、その首は鉄のかせに入れられた。彼のことばがそのとおりになる時まで、主のことばは彼を練った。

(へブル 10:35-36) ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には

大きな報いがあります。あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。

(解説) 夢というのは、すぐに実現するものではありません。多くの人々が、自分の将来に色々な夢を持ちます。しかし、それを本当に実現させる人は少ないのです。なぜでしょうか？それは色々な困難が起きたとき、忍耐せずに、夢を途中であきらめてしまったからです。夢の実現には、困難はつきものです。夢が大きければ大きいほど、その実現のために乗り越えなければならない困難も大きいのです。神は、あなたの夢が本物かどうか、テストして、練っているのです。そのテストを合格しなければ、勝利の喜びを得ることはできません。困難を乗り越えるには、とにかく忍耐することです。最後まであきらめずに、希望を持ち続けて、何回でもチャレンジして下さい。色々な方法で頑張ってみて、それでもダメだったとしても「忍耐して待つ」という最後の方法が残っています。粘り強く祈りながら、何年も持ち続ける中で、少しずつ道が開かれていくのです。あなたの夢を、夢で終わらせてはいけません。困難が来たからと言って、簡単にあきらめてしまっただけではいけません。あきらめてしまったら、あなたの夢は、その程度の願いでしかなかったことになってしまいます。本当に切実に願う夢なら、どんな困難があっても忍耐して、実現するまで何年でも待ち続けるものです。……あなたのビジョンは何ですか？それが実現することを本気で願いますか？そのために犠牲を払う覚悟がありますか？あなたのビジョンを投げ捨ててはいけません。それはあなたの人生に大きな報酬をもたらすものなのです。「約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐」なのです。

4章 指導者となるには (創 41 章)

1、 指導者となるのに必要な資質は、何ですか？

(創 41:33) ですから、今、ファラオは、さとくて知恵のある人を見つけ、その者をエジプトの地の上に置かれますように。

(創 41:38-40) そこで、ファラオは家臣たちに言った。「神の霊が宿っているこのような人が、ほかに見つかるだろうか。」ファラオはヨセフに言った。「神がこれらすべてのことをおまえに知らされたからには、おまえのように、さとくて知恵のある者は、ほかにはいない。おまえが私の家を治めるがよい。私の民はみな、おまえの命令に従うであろう。私がまさっているのは王位だけだ。」

(解説) 「さとくて知恵のある人」が、指導者となることができます。ファラオが夢を見た

とき、エジプトの呪法師の中の誰も、その夢を説明できる人はいませんでした。しかしヨセフには、神の霊が宿っていて、その夢を解き明かすことができました。単に夢の意味を説明するだけでなく、その豊作とききんに対する対応策まで進言したのです。その解き明かしを聞いたファラオは、ヨセフがエジプト全土の指導者としてふさわしいと認めました。指導者とは、問題を解決する能力のある人です。問題が起きてから「どうしよう」と言って困ってばかりいる人は、指導者になれません。知恵のある人は、問題を事前に予防し、準備しておいて、問題が起きてもそれに対して冷静に、最善の方法で対処することができます。そのような知恵は、神の霊、聖霊から来るものです。世の知恵と神の知恵は違います。世の中でいくら学歴があって頭の中に知識が一杯あっても、実際の生活の中で善悪の判断ができなければ、何の役にも立ちません。

「主を恐れることは知識の初め。」(箴言 1:7)

主を恐れて主の御声に聞き従い、何が主の御心にかなうのか分別し、それを実行する能力、それが神の知恵です。このような知恵を持つ人は、すばらしい指導者になることができます。

2、物が豊かにあるときには、それをどのように管理すべきでしょうか？

(創 41:34-36) ファラオは、国中に監督官を任命するよう、行動を起こさせますように。豊作の七年間に、エジプトの地の収穫の五分の一を徴収なさるためです。彼らに、これからの豊作の年のあらゆる食糧をすべて集めさせ、ファラオの権威のもとに、町々に穀物を蓄えさせるのです。彼らは保管し、その食糧は、エジプトの地に起こる七年の飢饉のために、国の蓄えとなります。そうすれば、この地は飢饉で滅びることがないでしょう。」

(解説)それをたくわえておいて、後で物がなくなるときのための備えをすべきです。ヨセフは、豊作の7年間のうちに食糧の5分の1を蓄えて保管し、その後起こる飢饉の7年のために準備して、国が滅びないようにしました。これこそが知恵のある方法です。給料が入ったとき「今手元にお金一杯あるから大丈夫だ」と思って、それを好きなようにどんどん使ってしまうと、月末にはお金がなくて困ってしまいます。これは知恵のないやり方です。お金は、いつもたくさんあるわけではありません。飢饉のときが来てからでは遅いのです。給料が入ったら、その10分の1は献金し、その他の10分の1は貯金しておいて、残りの10分の8で生活するのです。例えば1か月20万円の収入で、その10分の1の2万円を毎月貯金したら、1年間で24万円が貯まります。それを10年間続けたら、240万円の貯金となります。今使いたいと思っても、我慢して、節約するのです。少しずつでも貯金しておけば、いざ必要という時に役に立ちます。「ちりも積もれば山となる」です。蟻でさえ、夏のうちに食物を確保します(箴言 6:6-8)。私たちは、蟻よりも知恵のある者であるべきです。私たちは、自分に与えられたお金を、より賢く、神の知恵をもって管理しましょう。

3、ヨセフはなぜ、このように知恵のある助言をすることができたのでしょうか？

(創 39:5) 主人が彼にその家と全財産を管理させたときから、主はヨセフのゆえに、このエジプト人の家を祝福された。それで、主の祝福が、家や野にある全財産の上にあった。

(創 39:22) 監獄の長は、その監獄にいるすべての囚人をヨセフの手に委ねた。ヨセフは、そこで行われるすべてのことを管理するようになった。

(解説) ヨセフは以前、ポティファルの家の全財産の管理人をしました。また監獄にいたときも、その中の全てのことを管理しました。彼は管理人としての経験が豊富だったのです。ヨセフはきっとそのとき、財産を貯金して増やすことや、他のメンバーの人事管理、事務運営など、色々なことを学んだことでしょう。そのような小さな経験をたくさん積んでいたのので、国全体の管理のような大きいことにも対処できたのです。今の経験は、一つも無駄になることはありません。後になって全てが生かされるのです。年配の人が知恵のある助言をすることができるのは、そのためです。若者でも、色々な人生経験を通してきた人は、苦難や問題を解決する知恵を持っています。そのような人は、周りの人から頼りにされて、指導者となります。指導者とは、いきなりなれるものではありません。今任されている小さな事に忠実な人は、後に大きなことを任されるようになります。

「あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。」(マタイ 25:21)

・・・あなたは今、どんな仕事をしていますか？あなたが今している仕事の専門家、達人となって下さい。それを通してあなたは成長して、後輩たちを教えるようになり、やがてその分野の指導者となることでしょう。

4、 指導者になった後でも、ヨセフはどのように働きましたか？

(創 41:46) エジプトの王ファラオに仕えるようになったとき、ヨセフは三十歳であった。ヨセフはファラオのもとから出発して、エジプト全土を巡った。

(解説) ヨセフはエジプト全土の支配者となっても、「ファラオのもとから出発して、エジプト全土を巡」りました。その地位に満足して、宮殿の中で座っていることもできたでしょうが、彼はそうしませんでした。彼は依然として謙遜であり、自分の役目に忠実だったので、勤勉に全国を巡り歩いて、国中に監督官を任命して、町ごとに穀物をちゃんと保管しているか1つ1つチェックしました。管理者とは、仕事全体を把握している人です。責任感のある指導者は、自分の目で必ず確認します。他人の任せきりにしている人は、責任感のない人です。有能な指導者は、仕事を部下に委任しながらも、任せきりにせず、部下から報告を受けて、チェックして、助言して、よくできるように助けます。それからヨセフは、自分自身が熱心に働く姿を通して、国民のみんなに良い模範を示しました。支配者であるヨセフ自身が勤勉に、熱心に全国を巡り歩く姿を直接見て、部下たちも一生懸命に働こうと、チャレンジを受けたことでしょう。あなたの働き方は、メンバー全体に影響を与えます。指導者と

は、模範を示す人です。……あなたは、自分の仕事をよく管理して、把握していますか？責任感を持ってチェックして、よく運営していますか？そして熱心に働く姿を通して、メンバーに模範を示していますか？私たちは自分の属する家庭、職場、学校、地域の霊的指導者として、熱心に働きましょう。

5、 ヨセフは自分の二人の子どもに、なぜこのような名前をつけましたか？

(創 41:51-52) ヨセフは長子をマナセと名づけた。「神が、私のすべての労苦と、私の父の家のすべてのことを忘れさせてくださった」からである。また、二番目の子をエフライムと名づけた。「神が、私の苦しみの地で、私を実り多い者としてくださった」からである。

(解説) 長男の名前「マナセ」は「忘れる」という意味です。ヨセフは「神が、私のすべての労苦と、私の父の家のすべてのことを忘れさせてくださった」と言って、このように名付けました。ヨセフは、エジプトに来てから 13 年間、苦勞の連続でした。その中で、何度も故郷の父の家を思い出したことでしょう。帰りたくても帰れない状況の中で、どんなに父に会いたいと思ったことでしょう。そして、兄たちのことを思い出すたびに、恨んで、赦せなくて、忘れてしまいたくても忘れられなくて、何度も苦い感情がよみがえって来て、どんなに苦しんだことでしょう。しかし、エジプトの支配者となり、結婚をして、子どももできて、幸せになったとき、今までの苦勞と過去の傷の全てを忘れることができました。そして、たとえ過去のつらかった出来事を思い出しても、「そんなこともあったね」と、平静に受け止められるようになりました。主の御手によって幸せになったとき、ヨセフの心の傷は、いやされたのです。与えられた赤ちゃんを見て、その名前「マナセ」を呼ぶたびに、ヨセフは幸せにあふれて、今までの苦勞を忘れさせて下さった神に感謝したことでしょう……次男の名前「エフライム」は「実り多い」という意味です。「神が、私の苦しみの地で、私を実り多い者としてくださった」と言って、このように名付けました。ヨセフはこのエジプトで、たくさんの苦しみを体験しましたが、それを通して多くの実り、収穫を体験しました。穀物の豊作だけではなく、人生の豊作、実りの時期を迎えました。つらく長かった冬は過ぎて、喜びの収穫の季節が来たのです。きっとヨセフは、妻と子どもたちに「こんな幸せな日が来るなんて、夢にも思わなかったよ」とくり返し話したでしょう。……あなたは今、人生のどんな季節にいますか？ある人は寒い冬の真ただ中にいるかもしれませんが、しかし、春の来ない冬はないのです。やがて季節は変わり、実り多い秋が来て、人生の収穫の時期が来ます。そのときには、あなたの過去の全ての傷と痛みはいやされて、その苦しみの時期を忘れて、もう思い出さなくなります。そして神の美しい導きを賛美するようになるのです。信じますか？

6、 ヨセフが指導者となったことによって、エジプトと全世界はどのように祝福を受けましたか？

(創 41:55-57) やがて、エジプト全土が飢えると、その民はファラオに食物を求めて叫んだ。ファラオは全エジプトに言った。「ヨセフのもとに行き、ヨセフの言うとおりにせよ。」飢饉は地の全面に及んだ。ヨセフはすべての穀物倉を開けて、エジプト人に売った。その飢饉はエジプトの地でもひどくなった。全地は、穀物を買うためにエジプトのヨセフのところに来た。その飢饉が全地で厳しかったからである。

(解説) ヨセフという、知恵のある優れた指導者がいたおかげで、エジプトと全世界は、飢饉のときに飢え死にするのを免れることができました。ヨセフ一人によって、1つの国だけではなく、全世界が救われたのです。指導者というのは、何と重要な地位でしょう！指導者が良ければ、そのグループ全体が祝福されるし、指導者が悪ければ、そのグループ全体が苦勞するのです。グループが大きければ大きいほど、その指導者の影響力は大きくなります。だから、誰でも指導者になれるのではありません。指導者となるには、様々なテストに合格しなければならないのです。あなたは指導者ですか？もしくは、指導者になりたいですか？指導者になるということは、すばらしいことです。

「もし誰かが監督の職に就きたいと思うなら、それは立派な働きを求めることである。」(I テモテ 3:1)

・・・あなたが人生の様々なテストに合格し、試練を乗り越えて、優れた指導者になるならば、あなたの導くグループは大きく祝福されます。あなたが父や母になれば、家族全体が祝福されます。あなたが長男や長女であれば、あなたの兄弟姉妹が祝福されます。あなたが部長になれば、その部署の職員全員が祝福されます。あなたが店長になれば、あなたの店が祝福されます。あなたが牧師になれば、その教会が祝福されます。そして、たとえその地位でなくても、あなたが今属しているグループのために祈り、メンバーの救いのために仕えるなら、あなたはそのグループの霊的指導者となるのです。……指導者となることを、恐れなくてチャレンジして下さい。そして、良い指導者となって下さい。あなたを通して、周りのみんなが祝福されます。

7、あなたが指導者となるために、どんな資質が必要でしょうか？

(解説) ヨセフが指導者となるために、どのような資質が必要だったのでしょうか？思い出してみましょう。忠実さ、誠実さ、謙遜、勤勉、熱心、知恵、愛、忍耐、管理能力、問題解決能力……そして何よりも、神が共にいて、神が成功させて下さることです。その他にも、指導者として必要な資質を挙げるなら、もっとたくさん挙げられると思います。以下の聖書箇所を参照して下さい。

(I テモテ 3:1-13)

3:1 次のことばは真実です。「もしだれかが監督の職に就きたいと思うなら、それは立派な働きを求めることである。」

3:2 ですから監督は、非難されるところがなく、一人の妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、礼儀正しく、よくもてなし、教える能力があり、
3:3 酒飲みでなく、乱暴でなく、柔和で、争わず、金銭に無欲で、
3:4 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人でなければなりません。
3:5 自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会を世話することができるでしょうか。
3:6 また、信者になったばかりの人であってははいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないようにするためです。
3:7 また、教会の外の人々にも評判の良い人でなければなりません。嘲られて、悪魔の罠に陥らないようにするためです。
3:8 同じように執事たちも、品位があり、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利を求めず、
3:9 きよい良心をもって、信仰の奥義を保っている人でなければなりません。
3:10 この人たちも、まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点がなければ、執事として仕えさせなさい。
3:11 この奉仕に就く女の人も同じように、品位があり、人を中傷する者でなく、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。
3:12 執事は一人の妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。
3:13 執事として立派に仕えた人は、良い地歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について、強い確信を持つことができるのです。

(テトス 1:6-9)

1:6 長老は、非難されるところがなく、一人の妻の夫であり、子どもたちも信者で、放蕩を責められたり、反抗的であったりしないことが条件です。
1:7 監督は神の家を管理する者として、非難されるところのない者であるべきです。わがままでなく、短気でなく、酒飲みでなく、乱暴でなく、不正な利を求めず、
1:8 むしろ、人をよくもてなし、善を愛し、慎み深く、正しく、敬虔で、自制心があり、
1:9 教えにかなった信頼すべきみことばを、しっかりと守っていなければなりません。健全な教えをもって励ましたり、反対する人たちを戒めたりすることができるようになるためです。

・・・・それらを紙に書いてリストを作ってみましょう。そして、今の自分にあてはまる点、又は不足している点をチェックしてみましょう。そして、そのリストを見ながら、自分の霊的・内面的成長のために、日々努力しましょう。聖霊があなたに力を与えて、あなたの品性を作り変え、あなたをすばらしい霊的指導者として立たせて下さいますように。

5章 苦しみの中で悔い改める (創 42:1~43:15)

1、 ヨセフがかつて兄たちについて見た夢は、どうなりましたか？

(創 42:6) ときに、ヨセフはこの地の権力者であり、この地のすべての人に穀物を売る者であった。ヨセフの兄弟たちはやって来て、顔を地に付けて彼を伏し拝んだ。

(創 42:9) かつて彼らについて見た夢を思い出して、ヨセフは言った。「おまえたちは回し者だ。この国の隙をうかがいに来たのだろう。」

(イザヤ 55:8-9, 11) わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。—主のことば—天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。……そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。

(解説) ヨセフはかつて、兄たちの束が自分の束におじぎをして、また 11 の星が自分を伏し拝んでいる夢を見ました。その夢は、まさにそのまま実現しました。ヨセフは、自分の夢が、まさかこんな形で実現するとは考えてもいなかったでしょう。私たちは、自分のビジョンを持ったとき、自分なりの計画を立てて、自分の時と方法で実現させようとします。しかし主は、私たちが考えたのとは全く違った道に、私たちの人生を導かれることがよくあります。だから、自分の夢や計画が、自分の思い通りに進まなくても、がっかりしないで下さい。主の思いは、私たちの思いと異なり、主の道は私たちの道よりもはるかに高いのです。主の計画は、いつも完全、最善、最適、最高です。そして、主のビジョンは、主の時に、主の方法で、主が必ず成し遂げて下さいます。そのとき私たちは、主の驚くべき不思議な導きに感謝し、主のすばらしいみわざを賛美するようになるでしょう。

2、 ヨセフは、兄たちを見てそれとわかったのに、なぜ見知らぬ者のようにふるまい、彼らを回し者だと言ったのでしょうか？

(創 42:7-16)

42:7 ヨセフは兄弟たちを見て、それと分かったが、彼らに対して見知らぬ者のようにふるまい、荒々しいことばで彼らに言った。「おまえたちはどこから来たのか。」すると彼らは答えた。「カナン地の地から食糧を買いに参りました。」

42:8 ヨセフには兄弟たちだと分かったが、彼らにはヨセフだとは分からなかった。

42:9 かつて彼らについて見た夢を思い出して、ヨセフは言った。「おまえたちは回し者だ。この国の隙をうかがいに来たのだろう。」

42:10 彼らは言った。「いいえ、ご主人様。しもべどもは食糧を買いに参りました。」

42:11 私たちはみな、一人の人の子です。私たちは正直者です。しもべどもは回し者などで

はございません。」

42:12 ヨセフは彼らに言った。「いや、おまえたちは、この国の隙をうかがいにやって来たのだ。」

42:13 彼らは言った。「しもべどもは十二人兄弟で、カナンの地にいる一人の人の子でございます。末の弟は今、父と一緒にいますが、もう一人はいなくなりました。」

42:14 ヨセフは彼らに言った。「私が、おまえたちは回し者だと言ったのは、そのことだ。」

42:15 次のことで、おまえたちを試そう。ファラオのいのちにかけて言うが、おまえたちの末の弟がここに来ないかぎり、おまえたちは決してここから出ることはできない。

42:16 おまえたちのうちの一人を送って、弟を連れて来い。それまで、おまえたちを監禁する。おまえたちに誠実さがあるかどうか、おまえたちの言ったことを試すためだ。もし誠実でなかったら、ファラオのいのちにかけて言うが、おまえたちは間違いなく回し者だ。」

(解説) 兄たちに誠実さがあるかどうか、試すためでした。兄たちは、以前は正直者ではありませんでした。ヨセフをエジプトに売っておきながら、父にはヨセフが獣にかみ殺されたように見せかけて、本当のことを言わず隠しておいて、父を欺くような者でした。ヨセフは、兄たちが以前自分にした悪いことを、悔い改めているかどうかを知りたかったのです。兄たちが自分で言うとおりに、本当に正直者になったのかどうか、試したかったのです。それで、末の弟を連れて来るように言って、約束を守るかどうか、監禁された兄弟を守るかどうかテストしたのです。彼らの銀をめいめいの袋に返したのも、彼らがそれを後で見て「これは自分たちが持ってきたのではない」と言って、正直にちゃんと返しに来るかテストしたのでしょう。……ヨセフは、今まで色々な人間の裏表を見て来ました。奴隷の時にはヨセフに荒々しく冷たく接していたのに、彼が大臣になったら急にペコペコするようになった人もいたでしょう。しかし、彼が監獄にいた時にも、大臣になってからも、変わらずに温かく接してくれた人もいたでしょう。ヨセフは、今までの様々な人間関係の中で、人を見抜く術を身に付けていたのです。ある人が誠実かどうかは、その人の言う言葉だけではわかりません。誰かがあなたに近づいて来るとき、あなたに良くしてくれて、その人が表面的には誠実そうに見えても、そのまま信用してはいけません。その人が裏で本当は何を考えているか、わからないからです。ゆっくり長い時間をかけて、テストする必要があります。色々な大変な問題が起こるときに、その人がどう対処するかによって、本当に誠実かどうかが見れるのです。あなたが困っているときに、自分の利益だけを考えて、あなたから離れるような人は、本当の友ではありません。逆にあなたが大変なときにも変わらずに関係を保ち、約束を守る人は、誠実な人で、信用しても大丈夫です。もちろん、周りの人みんなを疑って人間不信になる必要はありませんが、誰でもすぐに信用してしまうのは危険です。人間を見分けて、適切な距離を置き、境界線を引くことは、あなたの人生を守ることになります。

3、 このような苦しみに会ったことで、兄たちはかつて弟に犯した罪をどのように思いましたか？

(創 42:21-22) 彼らは互いに言った。「まったく、われわれは弟のことで罰を受けているのだ。あれが、あわれみを求めたとき、その心の苦しみを見ながら、聞き入れなかった。それで、われわれはこんな苦しみにあっているのだ。」ルベンが言った。「私はあの子に罪を犯すなど言ったではないか。それなのに、おまえたちは聞き入れなかった。だから今、彼の血の報いを受けているのだ。」

(解説) 兄たちは、自分がかつて弟ヨセフに対して犯した罪を後悔していました。その罪のせいで、自分たちは今、神から罰を受け、苦しみに会い、その血の報いを受けているのだと思いました。彼らは三日間、監禁所の中で「ああ、あんなことをしなければよかった」と何度も思ったことでしょう。苦しみに会うとき、人間はへりくだることができます。そして、自分に何か罪がなかったかどうか反省するようになります。苦しみは、人を悔い改めに導き、悔い改める機会を与えます。悔い改めは、神の元に立ち返るチャンスです。悔い改めとは、神との関係を回復することができる祝福なのです。あなたがもし、苦しみに会ったら、そのときは、自分が悔い改めるチャンスが来たと思って、肯定的に受け止めて下さい。「神よ、どうしてですか」と怒って反発するのではなく、神の力強い御手の下にへりくだって下さい (I ペテロ 5:6)。そして、何か自分に反省すべきことがなかったかどうか、よく考えて下さい。もちろん「この苦しみは全部自分の罪のせいだ」と思って、罪責感にしばらくは必要はありません。ヨブのように、天国に行くまで、この地上にいるときには原因のわからない苦難、というのものもあるでしょう。しかし、もしその苦しみを通して神に飢え渴き、神を慕い求め、神のみもとへもっと近づくなら、それは祝福へと変わります。そのような期間は、謙遜に神の御心を求めて、人生の何か大切なことを学ぶ、貴重な期間なのです。

4、 ヤコブは最初、ベニヤミンを連れて行くことを許可しなかったのに、なぜ最終的には許可しましたか？

(創 42:38) するとヤコブは言った。「この子は、おまえたちと一緒にには行かせない。この子の兄は死んで、この子だけが残っているのだから。道中で、もし彼にわざわいが降りかかれば、おまえたちは、この白髪頭の私を、悲しみながらよみに下らせることになるのだ。」

(創 43:13-14) そして、弟を連れて、さあ、その方のところへ出かけて行きなさい。全能の神が、その方の前でおまえたちをあわれんでくださるように。そして、もう一人の兄弟とベニヤミンをおまえたちに渡してくださるように。私も、息子を失うときには失うのだ。」

(解説) ヤコブにとって、ベニヤミンは最愛の妻ラケルの残した大切な子でした。ヨセフを失って後、ベニヤミンまで失うことは、ヤコブにとって耐えられないことでした。なので、エジプトにベニヤミンを連れて行くことを、最初は絶対に許可しませんでした。しかし、家族全体のやむを得ない事情を考えて、悩みながらも、最終的にはベニヤミンを連れて行くことを許可しました。ヤコブは、「これだけは絶対にダメ」と言って、ベニヤミンを自分の手の中にぎゅっと握っていました。しかし、この苦しみの中で、自分の人生の権利を手放しま

した。人生の決定権を、「全能の神」の御手にゆだねることに決心して「失うときには失うのだ」と告白しました。以前は「絶対に失ってはいけない」と思って恐れていたのに、神にゆだねた後は「失うこともありうる」と言ったのです。これは大きな転換点です。ヤコブは、今までの長い人生の中で、様々な苦しみを体験しました。その中で、人生が自分の思い通りにいかないときもたくさんありました。しかし、その苦しみの中で人生を神の御手にゆだねるとき、神が時にかなって御心をなして下さることも、体験的に知っていました。なので今回も、大いに悩み苦しみながらも、老年になってもずっと握っていた最後のとりで、ベニヤミンを、神のご支配と守りにゆだねることを決心できたのです。……私たちは、自分の人生を自分の思う通りに運転していこうとすると、恐れにしばられて、平安を失い、自由な決定ができなくなります。しかし、人生の最終決定権のハンドルを神にゆだねた人は、神が最善をなして下さると信頼して、その悩みから解放されます。そして「私の願うようではなく、御心になるように」と祈ることができるのです。人生は、神のものです。自分のものではありません。自分の権利を放棄するときこそ、自由になることができるのです。神は良い方です。神は、私たちが手放すときに、それを再び与えて下さいます。あなたが今、手に握っているものは何ですか？ 家族？結婚？進路？仕事？評判？健康？お金？……思い切って、恐れなくて、それを神の祭壇の上に、供え物としてささげて下さい。「これだけは絶対に自分のものだ」と主張して自分の手に握りしめていたコップを、神の御前に差し出して下さい。神はそのコップを水でいっぱい満たして、再びあなたに返して下さい。

5、 苦しみに会ったことは、あなたにとってどのような意味がありますか？

(詩篇 119:67, 71) 苦しみにあう前には、私は迷い出ていました。しかし今は、あなたのみことばを守ります。……苦しみにあったことは、私にとって幸せでした。それにより、私はあなたのおきてを学びました。

(解説) 誰にとっても、苦しみはつらいものです。苦しみが好きなのは一人もいません。なのにどうして、苦しみにあったことを「幸せでした」と言うことができるのでしょうか？…それは、その苦しみを通して、結果的に多くのものを得るようになったからです。苦しみを通して私たちは、

- (1) 罪の悔い改めに導かれ、きよめられます。
 - (2) みことばを守り、神に従うようになります。
 - (3) 神と人との前での誠実さが試されます。
 - (4) 自分の人生を神にゆだねるようになります。
 - (5) 人生における神のおきて、神の原則を学ぶようになります。
- ……あなたが今体験している苦しみは、決して無意味ではありません。その苦しみを通して、あなたが全能の神を慕い求めて、神ご自身に出会うことができますように、お祈りします。

6章 神の深い計画（創 43:16～45:15）

1、ヨセフはこのときなぜ、自分を制しましたか？

（創 43:30-31）ヨセフは弟なつかしさに、胸が熱くなって泣きたくなり、急いで奥の部屋に入って、そこで泣いた。やがて、彼は顔を洗って出て来た。そして自分を制して、「食事を出せ」と命じた。

（解説）ここで自分が泣くところを見られたら、兄たちが変に思って、自分が弟のヨセフだということが兄たちにわかってしまうかと恐れたからです。もしそうなったら、ヨセフがやろうとしていたこと、つまり兄たちが悔い改めて誠実な人になったかどうかを試す、という計画もできなくなってしまいます。だから、急いで奥の部屋に入って行って、他人が見ていない所で泣きました。そして感情が収まった後で、顔を洗って出て来て、再び大臣としての顔に戻って「食事を出せ」と命令したのです。ヨセフは、自分の目的を達成するためには、自分の感情をコントロールすることを知っていたのです。自制することは、とても重要です。もし私たちが自分の感情のままに行動したら、自分の計画は失敗してしまうでしょう。もし自分が怒りたいときに怒り、泣きたいときに泣き、言いたいことを言い、食べたいものを好きなだけ食べていたら、その人の人生は一体どうなるのでしょうか？そのような人は、赤ちゃんのように、内面的に未熟な人です。大人だったら、我慢するものです。成熟した人とは、自分の欲求を満たすことを遅らせて、自分をコントロールすることのできる人です。そのような人は、人生で成功します。もちろん、感情を抑圧しすぎて、フタをするのも良くありませんが、感情に支配され振り回されているのも問題です。適切な時と方法をわきまえて、自分の感情を上手に表現し、穏やかに発散できる人は、成熟した人、大人の対応ができる人です。自制は、御霊の実です（ガラテヤ 5:23）。そして自制は、訓練によって身に付けることができる品性です。私たちは、自分を制する術を覚えて、霊的、情緒的に成熟することを目指していきましょう。

2、ヨセフの家の管理者は、ヨセフの命令の理由を、知って従いましたか？

（創 44:1-6）

44:1 ヨセフは家を管理する者に命じた。「あの者たちの袋を、彼らが運べるかぎりの食糧で満たし、一人ひとりの銀を彼らの袋の口に入れておけ。

44:2 それから、私の杯、あの銀の杯は、一番年下の者の袋の口に、穀物の代金と一緒にに入れておけ。」彼はヨセフのことばどおりにした。

44:3 明け方、一行はろばとともに送り出された。

44:4 彼らが町を出て、まだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは家を管理する者に言った。「さあ、あの者たちの後を追え。追いついたら、『なぜ、おまえたちは悪をもって善に報いるの

か。

44:5 これは、私の主君が、飲んだり占いをしたりするときに、いつも使っておられるものではないか。おまえたちのしたことは悪辣だ』と彼らに言うのだ。」

44:6 彼は追いついて、このことばを彼らに告げた。

(解説) ヨセフは「銀の杯を入れておけ」と家の管理者に命令したとき、おそらくその深い理由をいちいち説明したりはしなかったでしょう。しかし、家の管理者は、理由を知らなくても、主人の言いつけ通りにしました。彼は「ご主人様、何でそんなことをするのですか？」などと質問したりはしませんでした。もし彼が自分の頭であれこれ考えて「こんなのおかしい」と思って、主人の言う通りにしなかったら、ヨセフの計画は実現しなかったでしょう。そして主人は、そのような不従順な人は使わずに、もっと忠実な別のしもべを用いるでしょう。しかしこの管理者は、ただ忠実に、とにかくそのまま従順したのです。これこそが従順であり、しもべとしての正しい態度です。理由がわかって、頭で納得してから従順するのは、本当の従順ではありません。そのような態度では、自分の好きな命令だけは従い、いやな命令は従わないようになるでしょう。命令は、無条件で従順するものです。従順する理由は「それは主人の言ったことだから」それだけです。他には何の理由もありません。主が私たちに命令するとき、多くの場合、その理由をいちいち説明したりはしません。たとえ理由を聞いたとしても、私たちはそれを完全に理解することはできないでしょう。私たちがいつも「何で？」と言うなら、私たちは主の弟子になることはできません。主に言われたときに「はい、わかりました」と言って、すぐにそのまま従う人は、忠実な良いしもべです。私たちは、主のみことばに無条件で従う、忠実で従順な主のしもべとなりましょう。

3、 ユダは誰のために、自分を身代わりとして犠牲にしましたか？

(創 44:33-34) ですから、どうか今、このしもべを、あの子の代わりに、あなた様の奴隷としてとどめ、あの子を兄弟たちと一緒に帰らせてください。あの子が一緒になくて、どうして私は父のところへ帰れるでしょう。父に起こるわざわいを見たくありません。」

(解説) ユダは父のために、自分がベニヤミンの身代わりとして奴隷になると言いました。それは父を愛するからです。父を悲しませたくないから、その父が最も愛する子ベニヤミンを連れ戻すために、自分自身を犠牲として差し出したのです。それはベニヤミンのためというよりも、父のためでした。ユダは以前は、ヨセフをエジプトに売り飛ばした首謀者でした(創 37:26)。弟のヨセフをしっかりと、父の心を考えず、父を悲しませる者でした。しかし今は、父の心を最優先に思って、そして弟のベニヤミンをかばうために、自分を犠牲にして、自分をささげるといふような、愛の人に変えられたのです。何という大きな変化でしょう！……ユダのしたことは、イエス・キリストの十字架を現しています。御子イエス様は、父なる神様を愛するがゆえに、父が愛してやまない人間たちを救うために、自分の命を犠牲として差し出しました。その十字架のおかげで、私たちは罪と死の奴隷から解放されたのです。私たち

はみな、このイエス様の十字架の愛を受けた者たちです。……では私たちは、どう生きるべきでしょうか？ 私たちもイエス様のように、神を愛するゆえに、その神の愛しておられる失われたたましいの救いのために、自分の人生をささげるべきです。私たちは神を愛するゆえに、たましいを愛するのです。神を愛するときに、神の心がわかるようになります。父を悲しませたくないから、滅びゆくたましいを見て父が悲しむのを見たくないから、自分を犠牲とするのです。最愛の子どもたちを地獄に送りたくない、あわれんで救いたいという熱い思いを父と共有するようになり、その救いのために自分の全てをささげるようになります。あなたも、ユダのように、そしてイエス様のように、父を愛して、人々の救いのために、人生をささげて下さい。父はあなたの犠牲のささげ物を、喜んで受け入れて下さいます。

4、 ヨセフは兄たちが以前自分にしたことを、赦していましたか？

(創 45:5) 私をここに売ったことで、今、心を痛めたり自分を責めたりしないでください。神はあなたがたより先に私を遣わし、いのちを救うようにしてくださいました。

(解説) ヨセフは、兄たちに自分のことを明かす前から、もうすでに兄たちのことを赦していました。だから兄たちのことを一言も責めませんでした。また大臣という地位を使って復讐することもできましたが、そうしませんでした。もちろん赦すことは、簡単なことではなかったでしょう。自分の肉の力では、決して赦すことができなかつたと思います。しかし、ヨセフはエジプトで最後は幸せになって、過去の傷がだいぶいやされていました。そして兄たちが以前の罪を悔い改めていて、昔のようなひどい人ではなく、誠実な人へと変えられているのも見て確認できました。そして、このような形で兄たちと再会させて下さった神の不思議な導きを体験して、神に感謝しました。だからヨセフは、ただ神の恵みのゆえに、彼らを赦すことができたのです。私たちも、自分の力だけでは、他人を赦すことができません。自分を傷つけ、自分にひどいことをして、自分の人生に大きな被害を与えた人を、どうして簡単に赦すことができましようか。しかし、その人を赦さないで、心の中で恨み続けていたら、その感情が自分の心をしばり、自分の人生を破壊するようになります。だから、その相手のためにではなく、自分を霊的牢獄から解放するために、その人を赦すことを選択する、と決心するのです。そしてその赦しは、主の恵みを思い出すときに初めて、可能になります。主イエス様が十字架の上で、こんな罪人の私をも赦して下さった、その恵みを考えるときに、他の人の罪をも赦すことができるようになるのです。それから「時間」という薬も必要です。傷を受けたばかりで心が痛んでいるときには、怒りが収まっていないので、赦すのが難しいのは当然です。頭でわかっている、感情的にできません。忘れようと思っても、急にまた思い出して、頭の中でぐるぐるして、一人で怒ったりします。しかし、時が経つにつれて、その時の感情もだんだん薄れていきます。そして、その後主が色々な慰めを与えて下さったことを思い出すのです。悪かった過去ばかりぐるぐる考えないで、今までの主の恵みを数えて下さい。「かーぞえよ主の恵み！」と賛美して下さい。そして今日一日を、主の前で精一杯喜んで生きて下さい。そうすればその一日が、明日になればあなたの「良い過去」となり

ます。そのような一日一日が積み重なっていくなら、あなたは自分の人生のために「良い過去」を作り上げているのです。過去は、変えられるのです！良い過去が増えるにつれて、それが今のあなたと悪い過去との間の「クッション」の役割をします。あなたは自分の過去を振り返ったときに、もうその昔の傷のゆえに、以前ほど痛まなくなります。「そんなときもあった。けど今は、主の恵みによってだいぶいやされ、回復された。だから、その相手のことを恨んで自分を苦しめるのはやめて、もう赦そう」そう告白するようになる日が、きっと来ます。その日を期待しながら、未来に向けて希望をもって生きていきましょう。

5、 神は何のために、ヨセフをエジプトに遣わしましたか？

(創 45:7) 神が私をあなたがたより先にお遣わしになったのは、あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによって、あなたがたを生き延びさせるためだったのです。

(解説) 神はいのちを救うために、兄たちより先に、ヨセフをエジプトに遣わしました。それは「大いなる救いによって」兄たちや父の家族みんなを生き延びさせるためでした。神は、ヨセフが生まれる前から、この目的のためにヨセフを選んでいました。神は彼に夢を与えて、その夢が実現するまで導きました。神は彼をエジプトに送り、奴隷生活と監獄の中で訓練し、彼が指導者としてふさわしい器となるように造り変えました。そして神は彼に知恵を与えて、エジプトの統治者として立たせました。神はヨセフを用いて、全世界をききんから救うように計画しました。そして、それを通して兄たちと再会させ、父たちの家族の命を救いました。それが後にイスラエル民族となり、救い主イエス・キリストを生み出す民族となったのです。神の救い計画は、何と深くて大きいのでしょうか！……神は何のために、あなたを今いる所に遣わされたのでしょうか？それは、あなたを通してその家庭が、その職場が、その学校が、その地域が救われるためです。イエス・キリストの救いの福音を伝える、その目的のために、神があなたをその所に派遣したのです。あなたは、その人々を滅びから救うために遣わされた、神の宣教者なのです。この「大いなる救い」の目的がわかった人は、神が置かれたその所で困難を乗り越え、勝利していくことができるのです。信じますか？

6、 ヨセフをエジプトに遣わしたのは、兄たちですか？それとも神ですか？

(創 45:8) ですから、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、神なのです。神は私を、ファラオには父とし、その全家には主人とし、またエジプト全土の統治者とされました。

(解説) 実際には、兄たちがヨセフをエジプトに送りました。しかし、そのようになるのを許可して、全てを導いたのは、神でした。だから「実は神がそうなさったのだ」と言えるのです。私たちは、自分の人生に悪いことが起きると、「なんでこんなことが起こるのか」と思います。もちろんそれは、その悪いことを直接やった人のせいであり、またそのようにし

て、その人を利用してあなたを苦しめるサタンのせいでもあります。しかし神は、その全ての状況を治めておられるお方です。全ての事は、神の許可なしには起こりません。だからその事も、神の大きな摂理の中で、実は神がなされたのです。(ヨブ 1:12) と (ヨブ 2:6) を読むと、そのことがよくわかります。

(ヨブ 1:12) 主はサタンに言われた。「では、彼の財産をすべておまえの手に任せる。ただし、彼自身には手を伸ばしてはならない。」そこで、サタンは主の前から出て行った。

(ヨブ 2:6) 主はサタンに言われた。「では、彼をおまえの手に任せる。ただ、彼のいのちには触れるな。」

・・・しかしこれは、現在まだ地上にいる私たちの頭では、到底理解できないことです。特にその不幸が大きいときには、なおさら受け入れがたいことです。「良い方である神が、なぜそんな悪い事をするのか」これは苦難にあう人々にとって、いつも大きなテーマです。神が良い方であることに疑いを持つようになります。神に疑問をぶつけ、訴えたくくなります。

「神よ、どうして…」と何度もつぶやきます。しかし、神は沈黙して、答えて下さいません。神を遠く感じて、信仰がダウンして、祈れなくなります。あなたは、そんな経験がありますか？そんなときは、一体どうしたらよいのでしょうか？……そのときには、私たちは決して理解できないでしょう。しかし、ずっと後になって、いつかきっとわかる日が来ます。神はいつも良いお方で、あなたを変わずに愛していて、その大変な状況の中でもあなたを導いていたことを。そして神はその悪い事さえも用いて、あなたのためにそれを良い事へと変えて、全てを益として下さったのだということ。そして、それを完全に理解するようになるのは、やはり私たちが天国に着いてからです。その日には、私たちは神と顔と顔で出会い、全ての疑問の雲は晴れます。そして「ああ、そうだったのですか。やっとわかりました」と言えるのです。そして感謝をもって「全ては神がなされたのだ」と告白して、神の深くて大きいご計画、驚くべき摂理を賛美するようになるでしょう。……あなたは今「神よ、どうしてあんなことが」という疑いがありますか？神は良い方です。そしてその神の変わらない愛を、あなたは信頼してよいのです。自分の人生を地上の視点で見るとはならず、天の神からの視点で見て下さい。たとえ今理解できなくても、神の深い計画がわかるようになる、その日を信仰の目をもって遠くに見つめながら、主を仰ぎ見て賛美しましょう。ヨセフのように感謝をもって「それは実に、神がなされたのです」と告白する日が、きっと来ます。

7、 ヨセフはなぜ何回も泣きましたか？

(創 42:24) ヨセフは彼らから離れて、泣いた。

(創 43:30) ヨセフは弟なつかしさに、胸が熱くなって泣きたくなり、急いで奥の部屋に入って、そこで泣いた。

(創 45:2) ヨセフは声をあげて泣いた。エジプト人はその声を聞き、ファラオの家の者もそれを聞いた。

(創 45:14-15) 彼は弟ベニヤミンの首を抱いて泣いた。ベニヤミンも彼の首を抱いて泣い

た。彼はまた、兄弟みなに口づけし、彼らを抱いて泣いた。それから兄弟たちは彼と語り合った。

(解説) 兄たちが、ヨセフを売った過去の罪を悔いているのを聞いて、ヨセフは彼らから離れて泣きました。弟ベニヤミンを見たとき、なつかしさに胸が熱くなり、急いで奥の部屋に入って泣きました。そしてユダが父を思って、ベニヤミンの代わりに自分を奴隷として下さいと言ったときに、ついにヨセフは自分を制することができなくなって、みんなの前で声をあげて泣きました。そして自分がヨセフであることを明かして、ベニヤミンを抱いて泣き、兄たちを抱いて泣きました。この後にも、ヨセフが泣いた、という所が 3 箇所も出てきます。(創 46:29) ヨセフは車を整え、父イスラエルを迎えにゴシェンへ上った。そして父に会うなり、父の首に抱きつき、首にすがって泣き続けた。

(創 50:1) ヨセフは父の顔の上に崩れ落ちて、父のそばで泣き、父に別れの口づけをした。

(創 50:17) 『ヨセフにこう言いなさい。おまえの兄弟たちは、実に、おまえに悪いことをしたが、兄弟たちの背きと罪を赦してやりなさい、と。』今、どうか、父の神のしもべたちの背きを赦してください。」ヨセフは彼らのこのことばを聞いて泣いた。

・・・なぜヨセフは、こんなにもたくさん泣いたのでしょうか？それは、それくらい今までの傷の痛みが大きかったからです。彼は静かにシクシク涙を流したのではなく「わーっ！」と大声をあげて泣いたのです。彼は今までどんなに大変だったことでしょうか。その涙は、今までの悲しみを洗い流す、喜びの涙でした。今までつらかったことを思い出して流す涙であり、また神への感謝と感激の涙でした。「今まで大変だったけど、今こうなって、本当に良かった、良かった」という、感極まってあふれる涙でした。あなたにはそれがわかりますか？それを体験した人は、その涙を理解できます。そしてその人と一緒に泣くことができるのです。だから、そのようなときには、主の前で思いっきり声をあげて泣いて下さい。もちろん、自制しなければならぬ時や状況もあるでしょう。しかし、変に我慢しすぎると、いやされるのが遅くなります。人は、涙の数だけいやされます。その涙が過去の悲しみをきれいに洗い流してくれるのです。思いっきり泣いた後は、心がすっきりします。悲しみの感情が全部はき出されて、情緒が回復し安定してきます。あなたが悲しいとき、つらいとき、大変なときには、泣いてもいいのです。主の御前で、賛美の中で、主の臨在の中で、そしてその涙を受け止めてくれる人と一緒に、思いっきり泣いて下さい。主はあなたと共におられて、あなたの目の涙をすっかりぬぐい取って下さいます。

8、 あなたの人生の中で、神の深い計画を、ずっと後になってからわかった、ということがありましたか？

(解説) あなたの今までの人生を振り返りながら、以下のことを分かち合いましょう。

(1) 今までのあなたの人生の中で、一番苦しかった時期は、いつでしたか？

(2) そのときに、あなたを助けてくれた人、慰めてくれた人は、誰でしたか？

- (3) その苦しみの中で、あなたはどんなことを学びましたか？
- (4) その苦しみの中で、神はあなたどのように回復し、いやして下さいましたか？
- (5) あなたがその体験を話すときに、あなたを通していやされる人がいますか？
- (6) そのときにあなたを苦しめた人を、あなたは赦しましたか？
- (7) あなたはそのときの出来事を、今ではどのような視点で見えていますか？

7章 人生の最期に（創 45:16～49:33）

1、なぜ家財に未練を残してはなりませんか？

（創 45:18-20）あなたがたの父と家族を連れて、私のもとへ来なさい。私はあなたがたに、エジプトの地の最良のものを与えよう。あなたがたは、地の最も良い物を食べるがよい。』おまえはこう命じなさい。『子どもたちと妻たちのために、エジプトの地から車を持って行き、あなたがたの父を乗せて来なさい。家財に未練を残してはならない。エジプト全土の最良の物は、あなたがたのものだから』と。」

（解説）ファラオがヨセフの家族たちに「エジプトの最良の地を与え、最も良い物を食べさせる、エジプト全土の最良の物は彼らのものだ」と約束したからです。だから、カナンの家に、今まで使っていた家財道具を残していきなさい、と言ったのです。実際、軽いものは持って行けても、重い物は持っていきません。エジプトに行ったら、もっとすばらしい物がたくさん与えられるのだから、今持っている家財に未練を持って「これを置いていくのはもったいない」などと考えなくてもよい、という意味です。私たちは、この地上で持っている自分の財産に、未練と執着を持つことがあります。自分の家、土地、貯金、経歴、地位、車、服など……。しかし、そのようなものはみな、天国に持って行くことはできません。この地上に全部残して置いていかなければならないのです。しかし、考えてみて下さい。天国で最良の物は全部、私たちのものなのです。天国では、地上の物とは比べ物にならないほどすばらしい最良の家に住み、最良の物を食べ、最良の相続財産を受け継ぐのです。信じますか？……だとしたら、私たちは今のこの世の物にあまり未練や執着を持ってはいけません。もちろん、この地上にいる間、生活に必要な物があります。それらの物は、神がその必要を日々十分満たして下さいます。しかし、必要以上にこの世の物に未練を持ち、過度の執着を持っていると、それが偶像となり、それに心がしばられて、神が下さるもっと大きなものを見失ってしまいます。この世の物は一時的であり、天国のものは永遠に続くのです。

（I ヨハネ 2:17）世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生

き続けます。

……この世の物への未練を捨てましょう。そうするとき、私たちの心は自由になり、天の靈的祝福で満ちあふれます。

2、 ヤコブが神にいけにえをささげた後、神はヤコブに、どんな幻を見せましたか？

(創 46:2-4) 神は、夜の幻の中でイスラエルに「ヤコブよ、ヤコブよ」と語りかけられた。彼は答えた。「はい、ここにおります。」すると神は仰せられた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民とする。このわたしが、あなたとともにエジプトに下り、また、このわたしが必ずあなたを再び連れ上る。そしてヨセフが、その手であなたの目を閉じてくれるだろう。」

(解説) 神はヤコブに幻の中で「エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民とする。わたしが必ずあなたを再び導き上る。そしてヨセフが、その手であなたの目を閉じてくれる」と約束されました。ヤコブは130歳にもなって、全家族を連れて、全財産を持って移住することに恐れを持っていたのでしょうか。又は、父祖たちからの約束の地はカナン之地なのに、全家族でエジプトに移住することにためらいがあったのかもしれませんが。そのようなときに、彼は礼拝していけにえをささげ、自分の人生を神にゆだねました。その後で、神は彼にビジョンを見せて下さいました。それは、彼の人生の最期のことだけでなく、彼の子孫のずっと後のことまで教えて下さったのです。……私たちは、人生何十歳になっても、将来に迷いを感じることがあります。私たちは明日のこと、1か月後のこと、1年後のことを考えて、心配します。人間は、明日ことはわからないからです。しかし神は、明日だけでなく、はるかに遠い未来のことまで計画しておられます。神は、永遠の視点で考えて、その大きなビジョンを私たちにを見せて下さいます。しかもそのビジョンは、自分一人のためのものだけではなく、自分を通して生まれてくる靈的子孫のためのビジョンでもあるのです。私たちが神に礼拝して、自分の全生涯を神にささげるときに、神はそのような大きいビジョンを与えて下さいます。あなたは人生に迷いを感じますか？そのときは神に礼拝して、自分の人生を神の御手にゆだねると決心して下さい。そのときに神は、あなたにビジョンを与えて、あなただけではなく、あなたを通して祝福を受ける多くの民のことまで見せて下さるでしょう。

3、 ヤコブはなぜ「もう今、私は死んでもよい」と言いましたか？

(創 46:29-30) ヨセフは車を整え、父イスラエルを迎えにゴシェンへ上った。そして父に会うなり、父の首に抱きつき、首にすがって泣き続けた。イスラエルはヨセフに言った。「もう今、私は死んでもよい。おまえがまだ生きていて、そのおまえの顔を見たのだから。」

(解説) もう死んだと思っていた息子ヨセフが生きているのを、自分の目で直接見て、再会できたからです。ヨセフは父に会うなり、父に抱きついて泣き続けました。ヨセフはこの日をどんなに夢見て待ち望んでいたことでしょう。そして父ヤコブも、今までの長い人生の中で一番の悲しみと痛みであったヨセフの事件がこのような形で解決して、今までの心の暗やみがどんなにすっきりと晴れたことでしょう。それこそ、人生でこれ以上の喜びと満足はない、もう十分だから「死んでもよい」と告白できたのでしょうか。……私たちは人生の終わりが近づいたとき「あれもやりたかった。ああしておけばよかった」などと後悔していたら、どんなに心残りでしょう。それこそ、死んでも死にきれない思いでしょう。そうならないためには、今生きている間に、悔いが残らないように、今日この一日、今この瞬間を、ベストを尽くして精一杯生きることです。そのようにして、自分の人生の目的を成し遂げて、自分のビジョンが実現した後は「もう死んでもよい」と言えるでしょう。イエス様も、十字架の上で自分の人生の目的、人類の罪を贖うという救いのみわざを成し遂げたとき「完了した」と言って、息を引き取られました(ヨハネ 19:30)。私たちも、地上での生涯を終えるときに「完了した」「もう死んでもよい」とはっきり言えるような、悔いのない人生を生きていきましょう。

4、 ヤコブはなぜ、子どもたちを祝福しましたか？

(創 48:9) ヨセフは父に答えた。「神がここで私に授けてくださった息子たちです。」すると、父は「私のところに連れて来なさい。彼らを祝福しよう」と言った。

(創 48:19) しかし、父は拒んで言った。「分かっている。わが子よ。私には分かっている。彼もまた、一つの民となり、また大いなる者となるであろう。しかし、弟は彼よりも大きくなり、その子孫は国々に満ちるほどになるであろう。」

(創 49:1) ヤコブは息子たちを呼び寄せて言った。「集まりなさい。私は、終わりの日におまえたちに起こることを告げよう。」

(創 49:28) これらはすべてイスラエルの部族で、十二であった。これは、彼らの父が彼らに語ったことである。彼らを祝福したとき、それぞれにふさわしい祝福を与えたのであった。

(詩 78:5-7) 主は ヤコブのうちにさとしを置き イスラエルのうちにみおしえを定め 私たちの先祖に命じて その子らに教えるようにされた。後の世代の者 生まれてくる子らがこれを知り さらに彼らが その子らにまた語り告げるため 彼らが神に信頼し 神のみわざを忘れず その命令を守るために。

(解説) ヤコブはヨセフの 2 人の子、マナセとエフライムに手を置いて祝福して祈りました。そして弟のエフライムが兄マナセよりも大きな民となると預言しました。また、ヤコブの 12 人の子も呼び寄せて、一人一人に祝福を与えました。それらの言葉は、終わりの日に起こることを告げて、おのおのにふさわしい祝福を与えるものでした。ヤコブはかつて、父イサクから祝福を受け、その預言はそのとおりに実現しました。ヤコブは父親の祝福権がどんなに大きな意味があるかを、体験的に知っていました。だからヤコブも、父親として、族

長としての権威をもって、自分の子どもたち一人一人を祝福して、その将来を預言したのです。全ての父親、母親は、自分の子どもを祝福する権威を持っています。親の祈りは、大きな影響力があります。親がビジョンを持って子どものために祈るとき、その預言は主にあって実現します。だから私たちは、自分の子ども、霊的子孫を養育するとき、一人一人にビジョンを持って育てましょう。一人一人の頭に手を置いて、そのビジョンを声に出して宣言しましょう。私たちのビジョンは、自分の一世代で終わるものではないからです。たとえ自分の世代に実現しなくても、後の世代で実現します。だから、神のビジョンが次世代にも引き継がれていくように、語り継ぐ責任があります。私たちは族長となり、私たちを通して、神を信じて従う民族が起こされていくのです。私たちが神のビジョンを次世代にバトンタッチしていくときに、私たちを通して神の民が生み出され、神の御国が実現していくと信じます。

5、 ヤコブはなぜ、自分が死んだらエジプトではなく、カナンの先祖の墓に葬るように願いましたか？

(創 47:29-30) イスラエルに死ぬ日が近づいたとき、彼はその子ヨセフを呼び寄せて言った。「もしおまえの心にかなうなら、おまえの手を私のももの下に入れ、私に愛と真実を尽くしてくれ。私をエジプトの地には葬らないでほしい。私が先祖とともに眠りについたら、エジプトから運び出して、先祖の墓に葬ってくれ。」ヨセフは言った。「必ずあなたの言われたとおりにいたします。」

(創 49:29-33) また、ヤコブは彼らに命じた。「私は、私の民に加えられようとしている。私をヒッタイト人エフロンの畑地にある洞穴に、先祖たちとともに葬ってくれ。その洞穴は、カナンの地のマムレに面したマクペラの畑地にあり、アブラハムがヒッタイト人エフロンから、私有の墓地とするために、畑地とともに買い取った洞穴だ。そこにはアブラハムと妻サラが葬られ、そこにイサクと妻リベカも葬られ、そこに私はレアを葬った。その畑地とその中にある洞穴は、ヒッタイト人たちから買ったものだ。」ヤコブは息子たちに命じ終わると、足を床の中に入れ、息絶えて、自分の民に加えられた。

(解説) ヤコブは、たとえ今はエジプトに住んでいても、自分の故郷、先祖たちからの約束の地はカナンの地であることを、いつも忘れませんでした。そしてその先祖たちが神から受けた契約を受け継ぐ者として、カナンの先祖たちの墓と一緒に葬られることを願いました。彼は自分が先祖たちと共に眠りについたら「自分の民に加えられる」ということを、形をもって子孫たちに現したかったのです(創 25:8、35:29)。私たちは、今はこの世に住んでいますが、この世の民ではありません。死んだ後、この地の墓に入って終わりなのではありません。イエス・キリストを信じて救われた者は、死んでから眠りについて、自分の民、つまり天国の神の民に加えられるのです。そのことをいつも忘れずに覚えている人は、体はこの地上にあっても、心は天国のゴールを目指して生きていきます。そして「私は神の民、神からの契約を受け継ぐ者、神のビジョンの後継者だ」という自負を持って、この世から聖別された人生を歩むのです。……あなたの人生の最終ゴールは、どこですか？この地上での成功で

終わりですか？それとも永遠の天国で神の栄冠を受けることですか？私たちのゴールが天国なら、この世にあっても、天国の民としてふさわしく生きましょう。

6、 あなたは人生の最期をどのように迎えたいですか？

(解説)「どのように死ぬか」ということは「どのように生きるか」ということを現しています。私たちは、この地上での短い生涯を終える前に、以下のように生きていきましょう。

- (1) この世の物に未練を持たない。
- (2) 自分の人生を神の御手にゆだねる。
- (3) 悔いのないように、今を精一杯生きる。
- (4) 次世代を、ビジョンを持って育てる。
- (5) 天国の栄光のゴールを目指して生きる。

8章 全ては益とされる (創 50 章)

1、 ヨセフの兄たちはなぜ、赦されたという確信を持っていませんでしたか？

(創 50:15-17) ヨセフの兄弟たちは、自分たちの父が死んだのを見たとき、「ヨセフはわれわれを恨んで、われわれが彼に犯したすべての悪に対して、仕返しをするかもしれない」と言った。そこで、彼らはヨセフに言い送った。「あなたの父は死ぬ前に命じられました。『ヨセフにこう言いなさい。おまえの兄弟たちは、実に、おまえに悪いことをしたが、兄弟たちの背きと罪を赦してやりなさい、と。』今、どうか、父の神のしもべたちの背きを赦してください。」ヨセフは彼らのこのことばを聞いて泣いた。

(解説) 兄たちは、ヨセフが自分たちを恨んでいて、自分たちの犯した全ての悪の仕返しをするかもしれないと思って、ずっと彼を恐れていたからです。父ヤコブが活着している間は、父が自分たちをかばってくれるから大丈夫だと思っていました。しかし、父が死んだ後は、ヨセフは大臣という地位を利用して、自分たちを罰するかもしれないと思いました。それで兄たちは「父は死ぬ前に、兄弟たちの背きの罪を赦してやりなさい、と書いていました」とヨセフに伝えて「私たちを赦して下さい」と言ってひれ伏したのです。しかし、ヨセフは兄たちを恨んでいたのでしょうか？いいえ、もう恨んではいませんでした。とっくの昔にすでに赦していました。だからこそ、兄たちをエジプトに呼んで養って来たのです。それなのになぜ、兄たちは仕返しを恐れていたのでしょうか？それは兄たちが、ヨセフの言葉と態度を疑い、ヨセフが自分たちを赦していることを信じるができなかったからです。……私たち

も、神がすでに私たちの罪を十字架の血潮のゆえに赦して下さったのにもかかわらず、「自分はもう赦された」という確信が持てないことがあります。そして、罪責感に悩みながら「神は私のことを怒っていて、いつか罰するのではないか」と恐れて、ビクビクしながら信仰生活をしているのです。それは、神の赦しの約束の真実さを、信じていないからです。しかし神は私たちに、聖書のみことばをもってこう約束しています。

(Iヨハネ1:9) もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

・・・私たちが真実なる神の御前で自分の罪を悔い改めて告白するなら、このみことばの約束に基づいて「私は赦された」と確信して良いのです。神は良い方、真実な方です。神はあなたを罪の重荷と束縛から解放したいと、待っておられるのです。恐れずに神の御前に出て行って、罪の赦しを信じて、受け取って下さい。

2、 神は、兄たちの悪い計らいをどのように変えて下さいましたか？

(創50:20) あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとして下さいました。それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです。

(ローマ8:28-29) 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。

(ローマ8:28 新改訳第3版) 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

(解説) 兄たちの計らいは、悪い計らいでした。しかし神は、それを良い計らいへと変えて下さいました。それは、その計らいによって、ヨセフが成長して指導者として立たされて、多くの人々が飢えて死なずに生かされる、その目的のためでした。私たちの人生にも、悪いことが起こります。サタンがあなたに悪い計画を持って、あなたの周りの人や事件を利用して、あなたを攻撃します。しかし神は、そのような悪い計画さえも用いて、神の目的にかなうように、良い計画へと変えてしまうことがおできになります。私たちは時々、この(ローマ8:28)のみことばを、自分個人に都合がいいように使って「人生色々大変なこともあるけど、それによって良いこともあるよ」とか「災い転じて福となす」「人間万事塞翁が馬」といった解釈することがあります。しかしこのみことばの本当の意味は、そうではありません。

「全てが益となる」というのは「神を愛する人、神のご計画に従う人」のためにのみ適用されるのです。「ほうっておけば良いこともある」というものではありません。ここで言う「益」とは、そんな自己中心的な「ラッキー」ではありません。神の計画と目的は、もっと深くて大きいものです。その目的とは、その事件を通してあなたが神を信じて救われ、神を愛する人となり、それを通して練られてきよめられ、成長して「御子のかたちと同じ姿」キリスト

の似姿に変えられていく、ということです。そしてあなたを通して、多くの人々のたましいが救われ生かされることです。これこそが「神のご計画」です。この神の救いと聖化の計画を信じるなら、私たちは今自分が直面している色々な困難を、別の視点から見ることができるようになります。たとえ今は悪い計画に見えても、神を愛して神に従い通していけば、きっとそれは良い計画へと変えられる、という希望を持つことができます。その希望があるからこそ、今の困難を、信仰を持って乗り越えていけるのです。私たちは、このご計画に従って、神に召された者です。神はあなたを、この救いのご計画のために召したのです。そうだとしたら、私たちはこの神の召しに答えて、神の良い計画を信じて従っていきましょう。私たちの人生に起こる全てのことは、たとえそれが私たちの目には悪いことであっても、神が全てを働かせて益として下さることを確信して、信仰によって歩みましょう。

3、 ヨセフは兄たちに、どのように語りましたか？

(創 50:19-21) ヨセフは言った。「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりになることができるのでしょうか。あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです。ですから、もう恐れることはありません。私は、あなたがたも、あなたがたの子どもたちも養いましょう。」このように、ヨセフは彼らを安心させ、優しく語りかけた。

(解説) 兄たちが「赦して下さい」という言葉を聞いて、ヨセフは泣きました。その涙は、かつて兄たちを恨んで赦せなかった苦しみ、しかし後で神の恵みを受けて赦せるようになった喜び、そして今はその兄たちが自分の前でひれ伏して赦しを求めていることへの感謝、色々な感情が入り混じった涙でした。ヨセフは兄たちに「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりになることができるのでしょうか」と言いました。罪をさばいて罰するのは、人間のすることではなく、神のなさることです。

(ローマ 12:19)「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」

・・・ヨセフはそれをよく知っていました。だから「どうして自分が神の代わりになり、神のようになって、仕返しをするなどということができましようか」と言ったのです。そして「もう恨んでなんかいませんよ。とっくの昔に赦していますよ。今もこれからもあなたたちを養いますよ。だからもう恐れなくて、安心して下さい」と言って、彼らを安心させ、優しく語りかけたのです。……私たちはしばしば、たとえ自分を苦しめた相手を一時的に赦すことができても、相手と会うのを避けたり、会って話すときも皮肉を言ったり、きびしい口調になってしまったり、相手が大変なときに心の中で「ざまあ見ろ、ばちが当たったんだ」と思ったりします。それはまだ自分が未成熟な証拠です。しかしヨセフは、そんなことはありませんでした。ヨセフはもう霊的、人格的に十分成熟していました。だから、自分に罪を犯した者を赦すだけでなく、彼らを慰め、回復できるように励まし、優しく接して、彼らの世話まですることができたのです。これは、非常にレベルの高い成熟度です。しかし、これは神

が私たちに求めているレベルなのです。

(マタイ 5:44) 自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

(ローマ 12:21) 悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

・・・神は私たちに、できないことを命令したりはしません。神がみことばをもって命令していることならば、神ご自身がそれを実行できる力も与えて下さると信じます。実際、このようなことは、自分の肉の力では到底できることではありません。ただ全能なる聖霊の力によってのみ、可能となるのです。私たちは、この聖霊の力に満たされて、より高い霊的成熟度「キリストの満ち満ちた身丈」(エペソ 4:13) にまで達するように、祈り求めていきましょう。

4、 ヨセフの遺体は、その後どうなりましたか？

(創 50:25-26) ヨセフはイスラエルの子らに誓わせて、「神は必ずあなたがたを顧みてくださいます。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上ってください」と言った。ヨセフは百十歳で死んだ。彼らはヨセフをエジプトでミイラにし、棺に納めた。

(出エジプト 13:19) モーセはヨセフの遺骸を携えていた。それはヨセフが、「神は必ずあなたがたを顧みてくださる。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上らなければならない」と言って、イスラエルの子らに堅く誓わせていたからである。

(ヨシュア 24:32) イスラエルの子らがエジプトから携え上ったヨセフの遺骸は、シェケムの地、すなわち、ヤコブが百ヶシタでシェケムの父ハモルの子たちから買い取った野の一面に葬った。そこはヨセフ族の相続地となっていた。

(ヘブル 11:22) 信仰によって、ヨセフは臨終のときに、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骸について指示を与えました。

(解説) ヨセフは、神が必ずイスラエルの民を顧みて、エジプトから約束の地カナンへと上らせて下さると知っていました。だからそのときに、自分の遺体を一緒に携え上るように言って、子たちに誓わせました。それは、信仰によって未来を預言して「将来必ずこうなる」とビジョンを宣言したのです。イスラエルの子孫たちは、ミイラにされて保管されたヨセフの遺体を見るたびに、そのビジョンを思い起こしたでしょう。それは子から子へと語り継がれ、子孫を励まし続けました。イスラエルの民がエジプトで奴隷となって苦しんだときにも、そのヨセフの遺体を見て、神のビジョンを思い出し、忍耐して希望を持ち続けることができたのです。そしてヨセフの遺言は 400 年以上たっても忘れ去られず、その誓いは守られたのです。私たちの中で、400 年前の先祖の遺言を覚えている人がいるでしょうか？ 何というすごい信仰継承でしょう！！エジプトを脱出するときに、モーセはヨセフの遺体を携えて行き、ヨシュアがカナンに入った後で、その遺体は遺言の通りにその地に葬られました。彼のビジョンは、400 年経って、ついに実現したのです。ヨセフの遺体は、このように後の子孫たちにビジョンを指し示し、神のビジョンを語り続けたのです。ヨセフは最後の最後まで、

ビジョンの人でした。

(ヘブル 11:4) 彼は死にましたが、その信仰によって今もなお語っています。

・・・私たちの生涯はどうでしょうか？あなたの死後、あなたの子孫はあなたの生涯をどう見るでしょうか？あなたの伝記を読むとき、あなたの子孫は励ましを受けるでしょうか？あなたの信仰とビジョンは、子孫に引き継がれているでしょうか？あなたの今の生き方は、あなたの子に、孫に、そして子孫代々にまで、大きな影響を与えます。私たちはヨセフのように、死んでもなお、子孫にビジョンを語り続ける者になりましょう。

5、 ヨセフの生涯を最後まで学んでみて、あなたは何を感じましたか？

(解説) この学びの1章から8章までを全部振り返って、以下のことを考えて、話し合ってみましょう。

- (1) あなたが一番印象に残った聖句は何ですか？
- (2) 一番励まされたことは何ですか？
- (3) 具体的に決心したことは何ですか？
- (4) あなたのビジョンは何ですか？
- (5) そのビジョンが実現するために、今必要なことは何ですか？
- (6) あなたを通して神のビジョンが実現するように、一緒に祈りましょう。